



JA新しいわての自己改革

もっと知ろう、JAの取り組み

JA新しいわての「農家所得の増大」や「地域の活性化」に向けた取り組みを紹介。今月は、「リンドウの計画的な新改植の取り組み」について紹介します。

面積台帳の活用

北部営農経済センターは、リンドウの計画的な新改植に取り組みとして、面積台帳を活用しています。個別農家の株年数と品種別の定植面積を把握し、圃場管理の「見える化」を実践しています。リンドウは定植後5年を超えると、収量の減少と病害虫などの被害による品質低下がみられるため、面積台帳をもとに新品種の導入や適的な改植期を見定め、収益の向上につなげています。

個別面談で生産規模に合わせた指導

昨年11月には、個別の面積台帳を基に、今年度の出荷・販売実績値を確認し、中長期的な経営計画の相談を全生産者で行いました。毎年安定した数量を出荷するための新品種の導入や適的な改植期を見定めるほか、個別の栽培条件に合わせた栽培方法などを話し合いました。



生産者の声



おおさき さゆり
大崎 咲百合さん (九戸村)

旦那の実家で、牛と米、花(リンドウ)の栽培をしていますが、リンドウは私が担当しています。今年4年目になりますが、面積台帳で作付状況を把握してもらっているので、どの品種をどのくらい作付けすると収益が上げられるのかなど、きめ細かい相談をすることができます。また、個別面談では、全体研修や勉強会ではなかなか聞けない事も相談できるので助かりました。